

外傷等動向調査委員会による地域診断の実施

地域診断とは？

⇒ 久留米市の安全安心に関わるデータを用いて、安全安心に関する現状分析をすること。外傷等動向調査委員会の所掌事項となっている。

現在、重点的に取り組んでいる課題は、久留米市がセーフコミュニティを始めた平成 23 年に実施した地域診断の結果、優先的に取り組むべきと判断されたものです。

久留米市を、もっと安全で安心なまちにしていくためには、定期的に地域診断を行うことが必要です。

外傷等動向調査委員会では、主に以下の点に留意した地域診断を行います。

- 久留米市の安全安心はどう変化しているか
- 重点課題の優先性に変化はないか
- 優先的に取り組まねばならない課題が新たに発生していないか

地域診断に用いるデータは以下のようなデータです。

- ◆ 人口動態統計、救急搬送データ、警察統計などの統計データ
- ◆ 久留米市民意識調査やセーフコミュニティ実態調査、久留米市高齢者実態調査、久留米市男女平等に関する意識調査などのアンケート調査
- ◆ 久留米市の各課など、行政機関が業務に関して集計しているデータ

外傷等動向調査委員会では、各種データの推移を踏まえながら、各対策委員会の取組を検証しアドバイスを行いました。

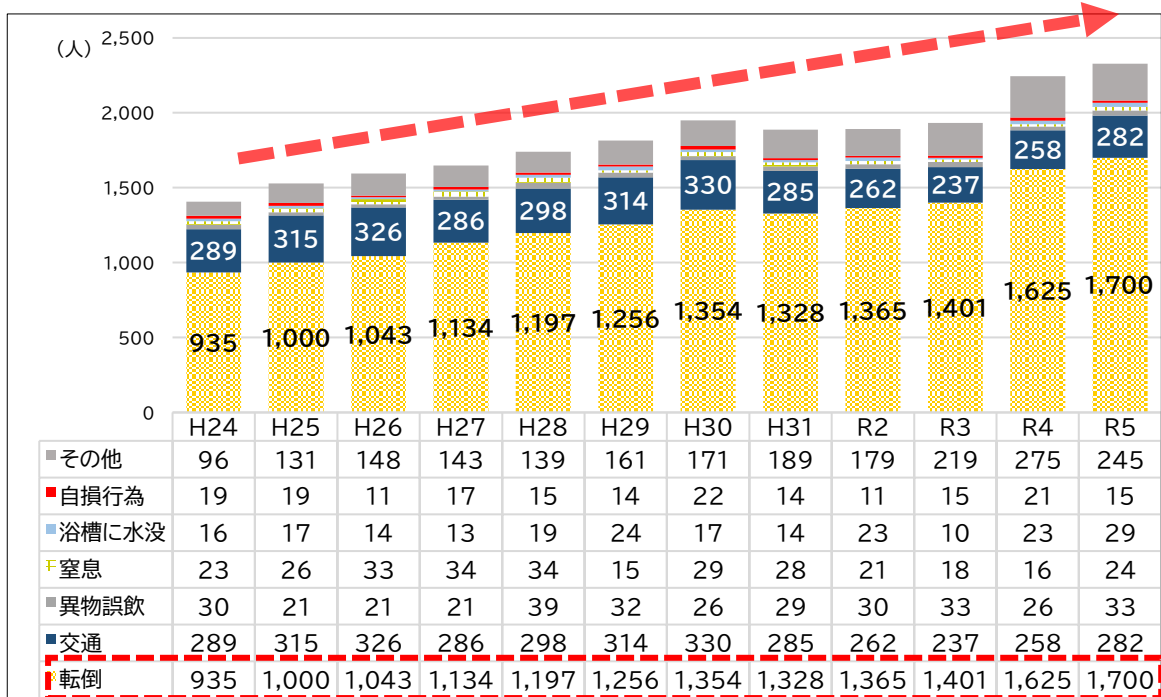
第 24 回（令和 6 年度第 1 回） セーフコミュニティ外傷等動向調査委員会

日程：令和 6 年 5 月 7 日(火) 場所：久留米市役所 3 階 303 会議室

委員	団体名	役職
	学校法人 久留米大学	教授
	一般社団法人久留米医師会	理事
	社会医療法人雪の聖母会 聖マリア病院	副院長兼救命救急センター長
	損害保険ジャパン株式会社	久留米保険金サービス課長
	久留米広域消防本部	救急防災課長
	久留米市保健所	所長
	久留米市	協働推進部長

1：高齢者の転倒予防

データ：高齢者の事故種別の緊急搬送人員数内訳

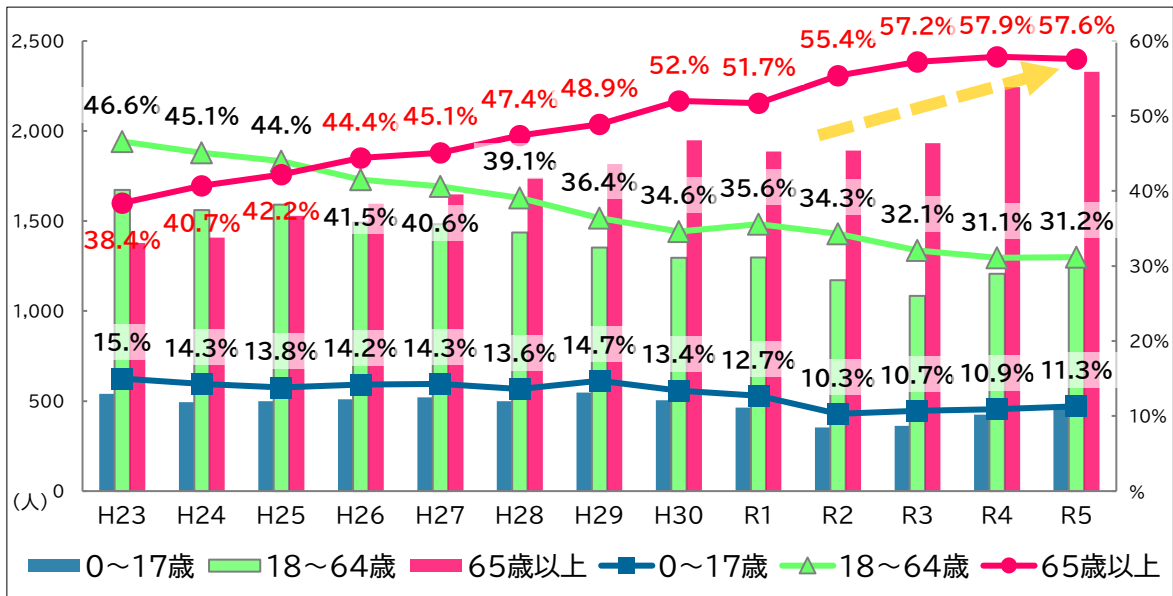


課題や分析	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の救急搬送人員数は増加傾向にあるが、高齢者の人口が増加しているため、避けられない部分がある。 ・高齢者の救急搬送の原因、及び高齢者の外因死の原因において、転倒・転落は上位である ・転倒を予防するために大事なものは、筋力と歩行能力と骨の強さである。 ・運動により健康寿命が延びたという報告もある。 ・高齢者は色々と薬を飲んでいるため、めまいやふらつきに影響があるかもしれない。
アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・啓発を継続しながら、高齢者の搬送件数の増加を緩やかにする必要がある。 ・体操や運動教室など、地域で行われる活動に参加しやすくするように支援する。例えば、市保健所が配布している健康アプリ（くるめのびのび健康ポイント）を活用してはどうか。 ・服薬に対する情報提供も啓発になるのではないか。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・転倒による搬送件数が増加する冬季の前に集中的に啓発を行うなど、季節や時宜に合った啓発に取り組む。 ・身体活動量の低下を防ぐため、介護予防教室や健康アプリなど身体的な機能を維持する取り組みを、引き続き実施していく。 ・啓発については、薬剤師会等の関係団体との連携を含め、効果的な方法を検討していく。
-----	---

2：高齢者の見守り

データ：年齢層別外因による救急搬送人員数

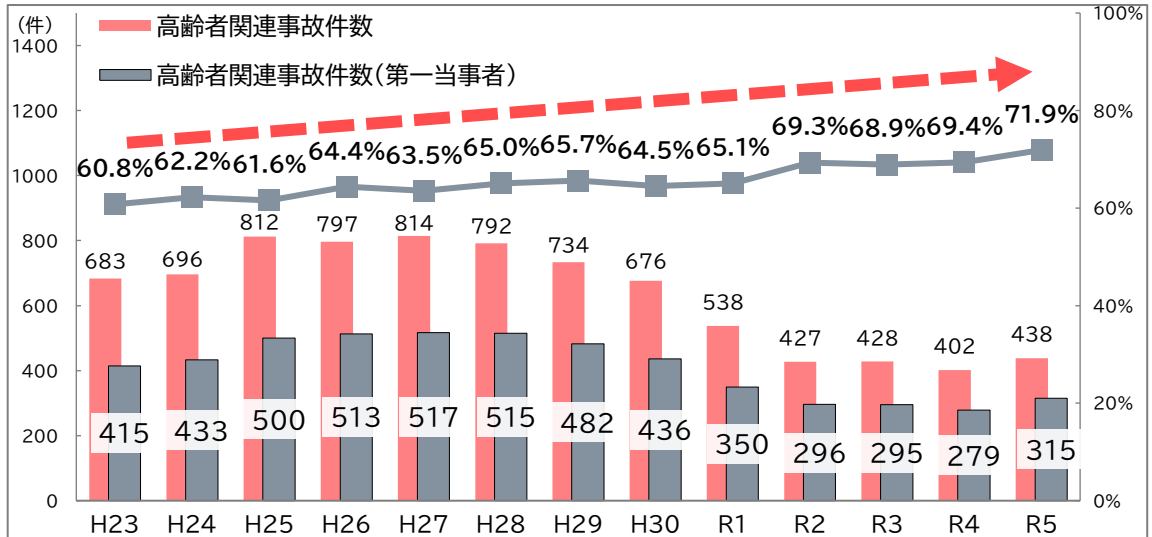


課題や分析	<ul style="list-style-type: none"> ・単身世帯の高齢者が増えており、全国的に建物救助が増えている。 例) 消防が出動し、鍵を壊して家の中に入ってみたら、動けなくなっている、もしくは既に亡くなっているケースなど。 ・地域のつながりが希薄化している。
アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・離れて暮らす家族でも、こまめに安否確認するというような呼びかけを行ってはどうか。 ・民間業者が機器を貸し出し、安否確認するようなどころもあるのではないかな。 ・近所の方の様子が何かおかしいなということに気づけるような、地域社会のつながりを作っていくのも方向性の一つではないか。

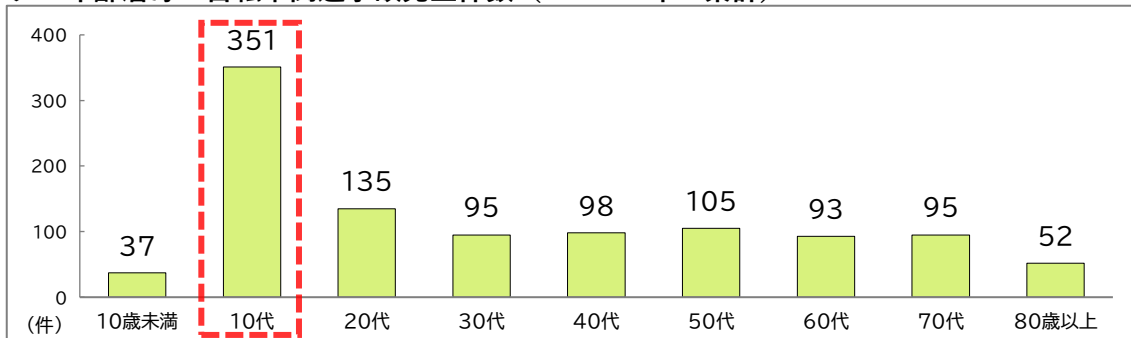
- 事務局
- ・建物救助が増加しているという状況を周知する効果的な方法を検討する。
 - ・市では、一人暮らし高齢者などを対象に、通報機器を貸し出し、異変があれば自宅に駆け付け、生活上の安全を確保する「緊急通報システム」事業を実施している。
 - ・様々な仕組みを活用しながら、活動団体や関係機関などと連携して、地域全体での見守りを続けていく。

3：交通安全

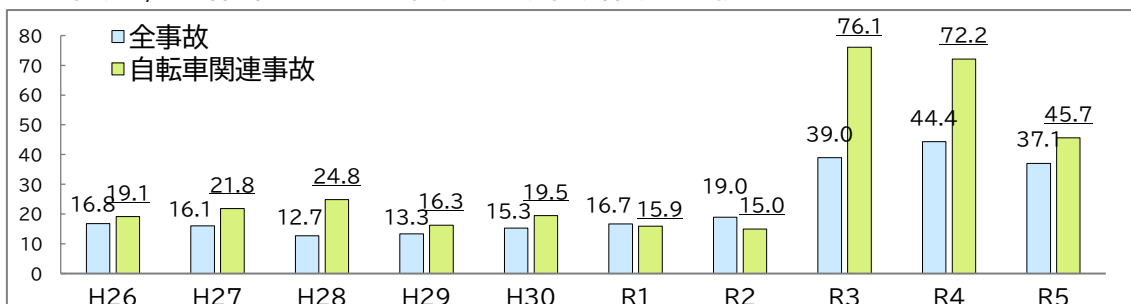
データ：高齢者が加害者（第一当事者）の事故の件数、及び高齢者関連事故に占める高齢者が加害者となる事故の割合



データ：年齢層毎の自転車関連事故発生件数（R1～R5年の累計）



データ：事故 1,000 件当たりの死亡事故と重傷事故件数の比較



課題や分析

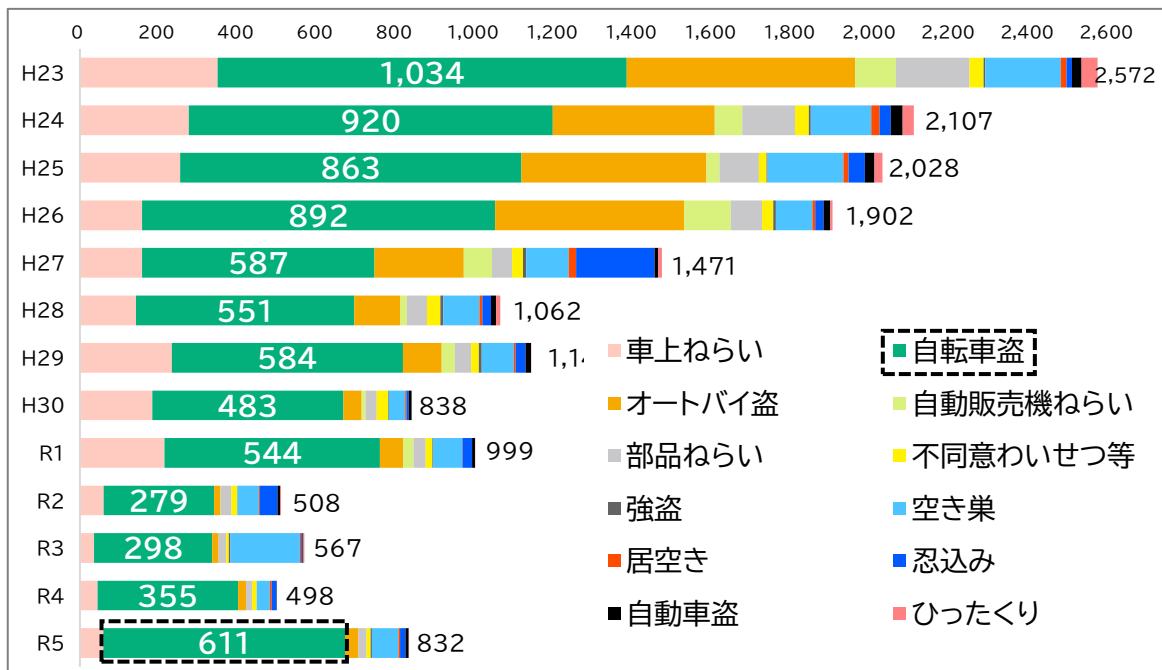
- ・高齢者の免許返納は、高齢の方が住みやすい街をどのようにつくっていくかという問題でもある。
- ・事故を起こした高齢者は、繰り返し事故を起こす方が多い。
- ・自転車事故は若い世代が多い。スマホをしながら運転するなど、ルールが守られていない状況も見受けられる。
- ・交通ルールを知っていても守らない人も多い。

アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が運転する代わりに、気軽に使えるような交通手段がないと、免許返納は進まないのでは。 ・自転車事故の重傷化を防ぐためには、ヘルメットを着用すること重要である。事故発生時の着用率などを指標に取り入れるとか、わかりやすく周知してはどうか。
-------	---

- 事務局
- ・各学校で実施している中高生を対象とした交通安全教室を継続する。
 - ・学校活動の中で、通学中の交通安全などに取り組んでいる学校もあり、引き続き粘り強く働きかけていく。

4：防 犯

データ：街頭犯罪認知件数の推移

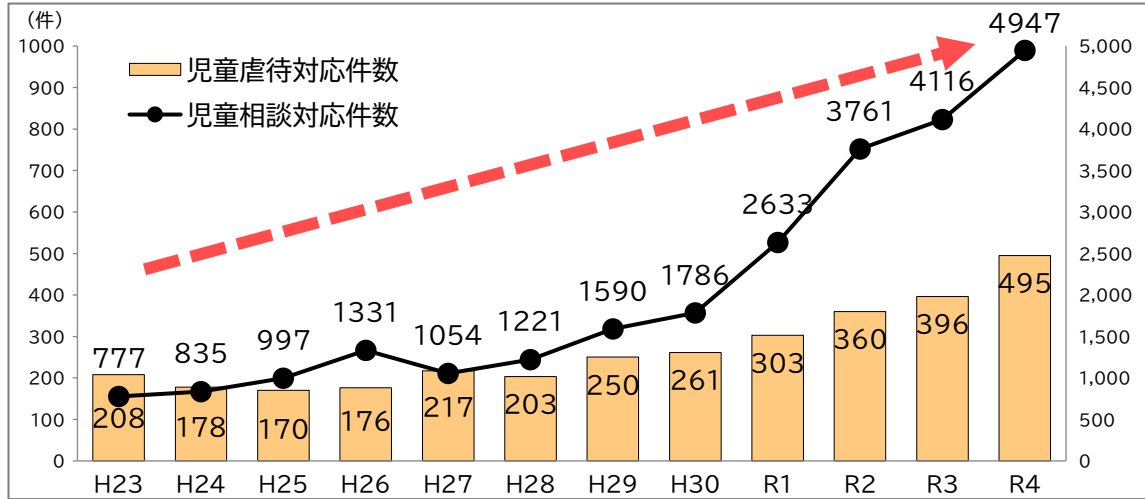


課題や分析	・近年、自転車の盗難が非常に多くなっており、被害者も加害者も若年層が多い。
アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・確実に施錠するよう啓発を行う。 ・若い人たちに、自転車の盗難は犯罪だという認識、理解を浸透させることが必要。

事務局 ・若い人たちを対象とした、施錠の重要性の啓発、自転車ツーロックの推進などを今後も粘り強く働きかけていく。

5：児童虐待防止

データ：児童虐待対応件数及び児童相談対応件数の推移



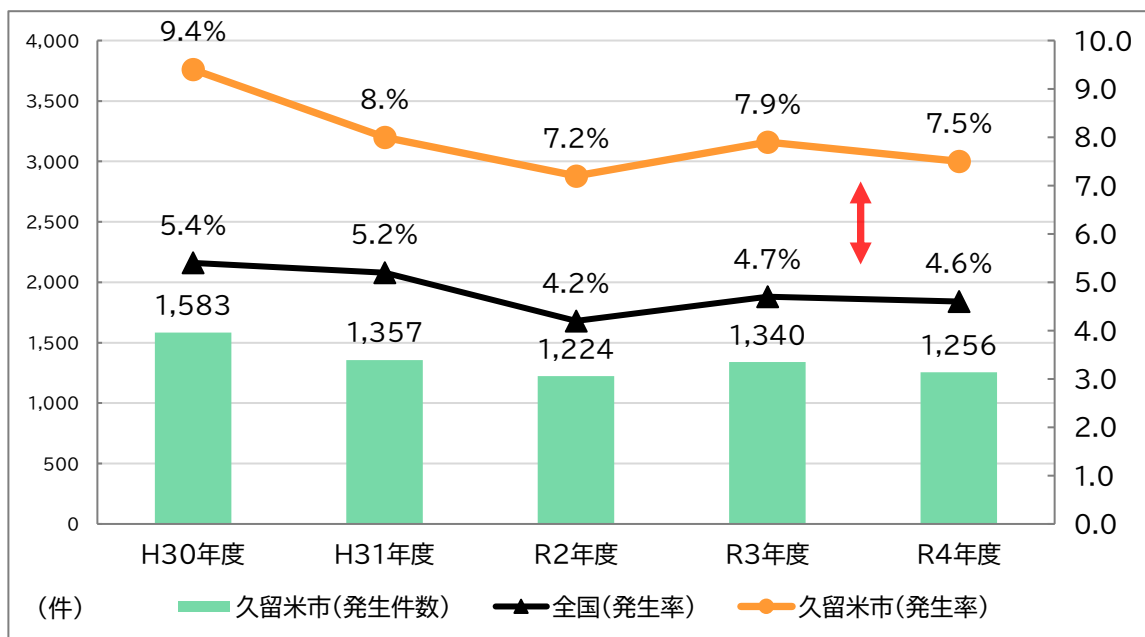
課題や分析	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相談件数、対応件数が増加している。
-------	---

事務局

- ・ 啓発に力を入れてきたことや、ニュースなどで取り上げられることで児童虐待についての社会的な関心や、189（児童相談所虐待対応ダイヤル）の認知が高まったことなどが増加の一因として考えられる。虐待件数の減少には、長期的に取り組んでいく。

6：学校安全

データ：小学校におけるけがの発生件数と発生率（けがの発生件数／児童数）

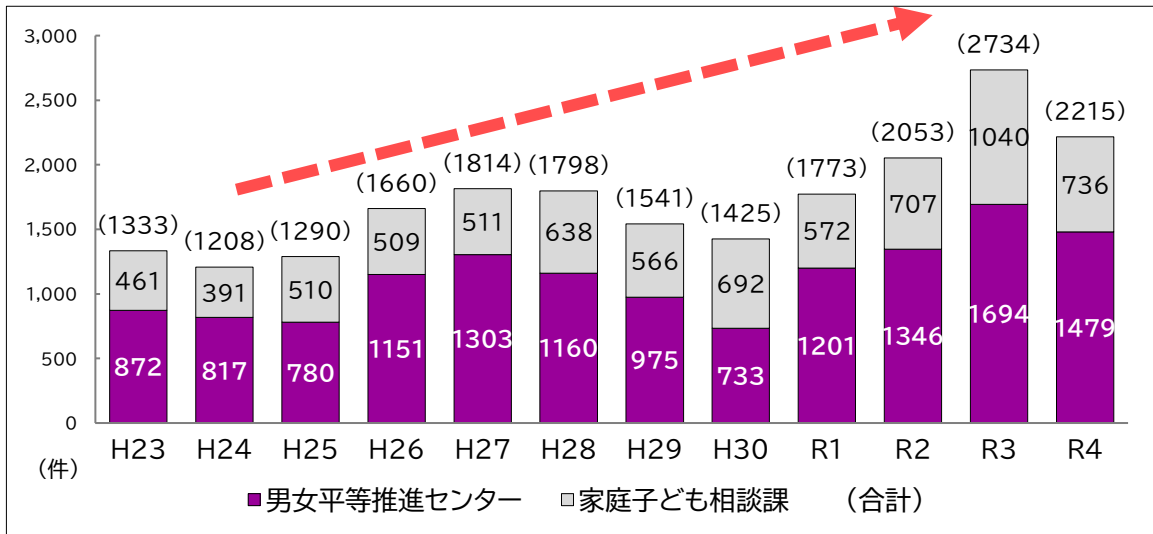


アドバイス

・久留米大学医学部や消防、教育委員会が連携して、小学校での救命講習（久留米版 PUSH プロジェクト）を推進しており、実施率がかなり上がってきている。こういったものも指標の一つに入れてみてはどうか

7：DV 防止

データ：DV の相談件数の推移



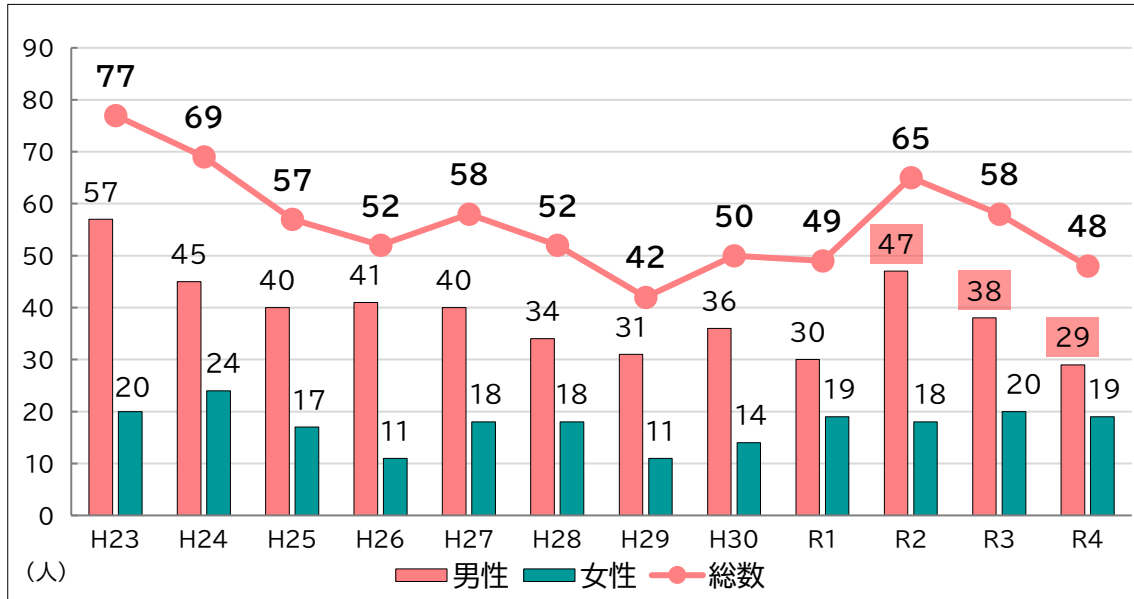
課題や分析	<ul style="list-style-type: none"> ・啓発が進むほど、DVの理解が促進され、相談件数が増加傾向になっている。 ・定量調査と併せて、定性調査も必要ではないか。 ・高齢者や障害者の家庭で起こっているDV被害などは、潜在化していると考えられる。
アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・定性的な調査も併せて進めてほしい。

事務局

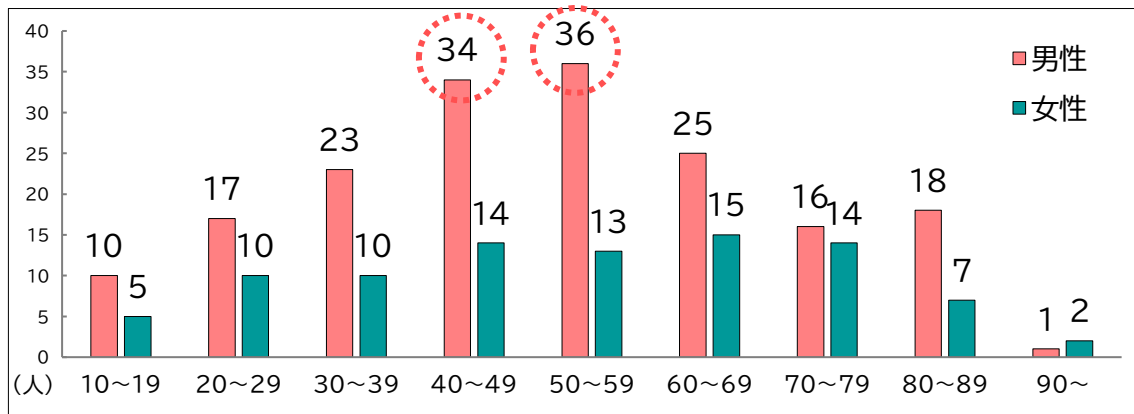
- ・アンケートやヒアリングなどの効果的な手法を検討し、定性的な調査を組み合わせていくことで、潜在化している被害の把握に努めていきたい。

8：自殺予防

データ：久留米市の自殺者数の推移



データ：年齢・性別ごとの過去5年間の自殺者の状況（H30-R4）



課題や分析	<ul style="list-style-type: none"> ・自殺の原因を把握することが重要である。 ・中高年男性の自殺が多いのが特徴。 ・自殺の原因動機としては、これまでは健康問題に次いで経済生活問題が多かったが、近年は家庭問題が増加している。
アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・自殺も虐待も何らかのストレスが問題の中心にある。そのストレスを地域社会全体でいかに解消していくかという観点が必要ではないか。 ・相談することは、解決に向けた第一歩である。いかに相談しやすい環境を作っていくかが大事である。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・働く世代など対象を絞った啓発や、広い世代を対象とした啓発など、効果的な対策や周知を引き続き行っていく。 ・周囲の気付きや、本人が事前に相談することができるよう、引き続き相談の重要性を浸透させていく。
-----	---

9：防 災

データ：久留米市における近年の豪雨災害

	H30.7	R1.7	R1.8	R2.7	R3.8	R5.7 (耳納山観測所)
1 時間 最大雨量	40.5	90.0	60.5	48.0	72.0	91.5
3 時間 最大雨量		177.5	147.0	105.5		167.0
24 時間 最大雨量	279.5	335.5	330.0	360.5	387.0	402.5
48 時間 最大雨量	388.5	402.5	366.5	483.0	572.5	452.0
72 時間 最大雨量				529.0	718.5	565.5
総雨量 (期間)	386.0 (7/5~8)	474.5 (7/18~23)	408.0 (8/26~29)	735.0 (7/5~10)	896.5 (8/11~19)	567.0 (7/7~10)
特別警報	●		●		●	●
浸水被害 (件)	床上： 431 床下：1,182	床上： 89 床下： 47	床上： 29 床下： 16	床上： 30 床下：1,088	床上： 317 床下： 708	床上： 923 床下：1,809
避難者数	1,270 人	505 人	545 人	1,398 人	876 人	704 人

※白抜きセル：観測史上最大

課題や分析	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の単身世帯が増えてきた。被害を少なくするためにも、早めの避難誘導が必要。 ・ 避難しない方を放置することはできないので、避難を拒否する方がいると地域全体に負担がかかる。
アドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域ぐるみで、避難の大切さを広めていくことが必要である。